

横浜市 歴史博物館 NEWS 3 1996・3



- ◇弥生時代にタイムトリップー「大塚・歳勝土遺跡公園」オープン
- ◇企画展「港北ニュータウン地域の暮らし」
- ◇いんたびゅー／網野善彦
「同じ古文書から新しい発見がある」
- ◇収集資料の紹介(5)海岸記聞
- ◇〈常設展示室探検〉土器パズル
- ◇歩いて、読んで、地域の歴史ー「ふるさと横浜探検」と「古文書解読教室」
- ◇先人たちの日常品を現代の日常品にーミュージアムショップオリジナルグッズ
- ◇〈知ってますか?〉ハイビジョンシアター



弥生時代に タイムトリップ

歴史博物館に隣接する「大塚・歳勝土遺跡公園」が、一部を除き平成八年三月二三日にオープンします。

面積六・六ヘクタールの公園の中に

は、今から約二千年前、弥生時代の人々が生活していた跡が復元・再現されています。遺跡公園には博物館から連絡橋をわたって行くことができます。ピクニックがてら

弥生時代へタイムトリップしてみませんか。

それでは、主な見学ポイントと施設を紹介いたします。

「大塚・歳勝土遺跡公園」
3月23日オープン



大塚遺跡



入口広場

大塚遺跡

弥生時代中期のムラの遺跡です。ここでは約九〇棟の竪穴式住居と約十棟の高床式倉庫、そして外周を環濠で囲んだ集落が発見されました。

この遺跡の一部を保存・保護のために盛土したうえで、現在、遺跡の周囲を木の柵と環濠で囲み、七棟の竪穴式住居と一棟の高床式倉庫を復元しました。なお、竪穴式住居のうち、一棟は車椅子のままで中を見学することができるようにも初めての設備を整えました。

このほか、遺跡発掘時の竪穴式住居跡の構造が見学できるようにした「型どり復元遺構」を設置しました。



型どり復元遺構



歳勝土遺跡

歳勝土遺跡

大塚のムラから少し離れた所に当時の人々のお墓（方形周溝墓）が発掘されました。その地域も大塚遺跡同様に保護のため盛土したうえで、遺構の一部を表示してあります。

また、ムラから墓までの道すじ、発掘調査で出土した様子や埋葬の仕方と内部を一部復元しました。



工房

大塚・歳勝土遺跡公園 平面図

地形模型

国指定史跡「大塚・歳勝土遺跡」を中心とした地域、地形（東西九二〇メートル、南北八三〇メートル）を再現した大型の模型です。この上にあがると、縄文時代から奈良時代にかけての遺跡分布の様子や周辺地形がよく分かります。

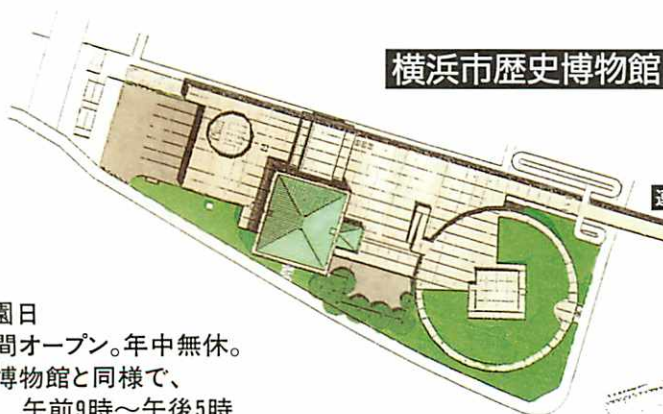
工房

歴史博物館で主催する様々な体験学習や講習会に利用する施設です。

入口広場

博物館から遺跡公園に行く前に、ぜひ見ていただきたいのが、この解説板。港北ニユータウン開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査資料にもとづき、約一五、〇〇〇年間の遺跡のうつりかわりをイラスト・写真を加えて分かりやすく説明してあります。

横浜市歴史博物館



【利用案内】

・開園時間と休園日

公園は24時間オープン。年中無休。

大塚遺跡は博物館と同様で、

開園時間 午前9時～午後5時

休園日 月曜日、祝日の翌日、12月28日～1月4日

・入園料 無料

企画展

港北ニュータウン 地域の 暮らし

現在港北ニュータウンと呼ばれている地域は、多摩丘陵の東端に位置し、かつては鶴見川やその支流である早瀬川・大熊川に向かつて多くの小谷、いわゆる「谷戸」が開いていました。「谷戸」では、水田や畑などに利用できる面積は半分程度で、残りは「山」が占めていました。人々は山や川などの環境を巧みに利用し、さまざまな生業を営んでいました。たとえば「山」では、雑木林を利用して木材や薪炭の生産を行ったり、竹林ではタケノコを栽培してきました。また、冷涼な気候を利用して天然製氷を行い、「横浜」などに出荷しました。この製氷をはじめ、養蚕や素麺の製造なども、現金収入を得るための貴重な仕事でした。このような生活の中で、暮らしを支えるさまざまな信仰や講が続けられてきました。

地形や景観を見ていきます。また、生活の中で生まれた人々の信仰や講の世界を併せて展示します。

本企画展の開催に当たっては、地域にお住まいの数多くの方々にご協力をいただいたことを、特に記しておきたいと思います。

所蔵者を記していない資料は、港北ニュータウン歴史民俗調査団が収集し、横浜市歴史博物館が管理しているものです。



大山講オミキスズ(大瀬町大山講中蔵)



小絵馬(山田神社蔵)



オオノコ



オヒョウゴ
〈地神講掛軸〉
(大瀬町上講中蔵)



牛久保村字引絵図



キアタマ

素麺の版木とラベル(萩生田二郎氏蔵)

展示の構成と 主な展示資料(予定)

1 港北ニュータウン地域の景観

港北ニュータウン地域のかつての景観や自然環境を航空写真・絵図・地図などを用いて表していきます。

【主な展示品】

牛久保村字引絵図(牛久保町)

大山街道絵巻(藤沢市教育委員会)

2 住まいと暮らし

衣・食・住を中心とした暮らしの様子を農家のヒロマとカッテを復元して紹介します。

3 さまざまな生業

港北ニュータウン地域で行われてきたさまざまな生業を紹介します。

【主な展示品】

農耕用具(港北ニュータウン地域)、養蚕用具(港北ニュータウン地域)、製氷関係資料(新吉田町、茅ヶ崎町等)、素麺関係資料(新吉田町)、山樵用具(港北ニュータウン地域)、漁獵用具(中川町、元石川等)

4 講と信仰

暮らしを支えてきたさまざまな講と信仰の世界を紹介します。

【主な展示品】

地神講掛軸(港北ニュータウン地域)、大山講オミキスズ(大瀬町)、蚕影大神石塔(中川町)、龍頭(師岡熊野神社)、絵馬(山田神社)

網野善彦 (あみの・よしひこ)

同じ古文書から 新しい発見がある

●歴史研究の魅力をお聞かせください。

古文書や文献を読むのが専門なのですが、それを読んでいくと、新しい事実がパツと見えてくることもあるんです。それから、ある年月たつて史料を読み直してみると、同じ史料から全然違ったことが発見できる。一生懸命読んでいくうちに、人の顔までは浮かばなくても、当時の人の気持ちが分かってくることもある。そういうところが面白いですね。

●たとえばどんな例がありますか。

古文書に「百姓」という文字が出てくると、今まで僕もほかの研究者も、農民だと思って読んでいたわけです。ところが最近のことですが、ある時、そうじゃないことに気がついた。「百姓」の中に商人も金貸しもあるし、職人もいるし、船で働いたり、海だけで生活している人もいます。そういう層がかなりいることが分かって、「百姓」と書いてある文献を全部読み直すと、今までと違うことがどんどん分かってきたんです。農民と思ひ込むと、その先考えるのをやめてしまふけれど、農民と決まらないとなつて、考えを広げていくと、本当にいろんなものが見えてきます。今まで百姓はす

べて農民で、百姓がたとえば江戸時代には人口の八〇%だから、日本は農業国だと言ってきたんですが、農業以外のことをやる



人が相当数いたとなると、そうは言えなくなりそうですよ。

自分の見方を突きつめる

●従来の見方がくつがえされたわけですね。
考えてみれば、百姓と農民はイコールじゃない、というのは当たり前のことですね。先人観なしに文字の意味通り解釈すれば、どうしてそうなるのか、疑問を持つは

ずです。そうしたら自分の目で史料を見て、そこから自分で解釈したものを大事にする。普通の生活でも、誰もがこう言っているけれど、自分にはこう見える、ということとを最後まで大事にして、ものを突きつめていく、ということが必要だと思うんです。歴史の史料を読みながら、そういうことができた時ぐらい、面白いことはないですよ。

日本史像の枠組みが崩れる

●新しい日本史像について考えているそうですが。

そんなものはありませんが、今までの日本史像を見直す必要がある、ということ声を大にして言っています。これまで我々が常識にしていた日本史像の枠組み、つまり日本は島国で、農業中心の社会で、独特な文化を持っていた、とか、昔から日本人が日本列島にいて、ずっと今まで来ている、といったとらえ方が、相当崩れないとだめだな、と強く感じています。第一、百姓は農民に限らないとなると、農民はずいぶん明らかにされているのに、それ以外の研究は非常に弱いんです。なぜかという、田や畑の農業が圧倒的で、それ以外はごくわずかなから、研究しても歴史の大枠に影響ない、と今まで考えられていましたから。海、山といった農業以外の面の研究は今、始まったばかりで、たとえば海についてちよつと調べただけでも、これまでの常識とかなり違う話ができるわけです。

海との関係を生かして

●横浜の歴史についてどう思いますか。

それこそ、海との関係を度外視しては、横浜の歴史は語れません。古くから神奈川や六浦に港があつて、それらを通して世界に開かれた都市、といえるでしょう。この博物館の活動にも、その点を大いに生かしていただきたいと思っていますね。

●そのほかに、横浜市歴史博物館への要望などありますか。

博物館というのはやっぱり学芸員が支えているわけですから、学芸員が安定して仕事ができるような状況が、できるだけ確保されるのが一番大事という気がします。建物ばかりでなく、ソフト面も欠けるところがないようにしてほしい。学芸員が自分の研究を、楽しく面白く進めていける環境が整うと、資料もよく集まるし、展示も生き生きとくるんです。人を大事に育てていくようにすれば、将来必ずいい博物館になると思います。

●あみの・よしひこプロフィール●

●山梨県に生まれる。一九五〇年、東京大学文学部史学科卒業。日本常民文化研究所研究員、都立北園高校教諭、名古屋大学文学部助教授、神奈川大学短期大学部教授を経て、現在、同大学特任教授。神奈川大学日本常民文化研究所所員。日本中世史、日本海民史専攻。常民研究をベースに、日本史像の再検討を一貫して行ってきた。

●著書「蒙古襲来」(小学館)「無縁・公界・楽」(異形の王権)(平凡社)「日本の歴史をよみなおす」(筑摩書房)「日本中世の非農業民と天皇」(日本中世の民衆像)(岩波書店)「海と列島の中世」(日本エディタースクール出版部)

海岸記聞



写真1



写真2

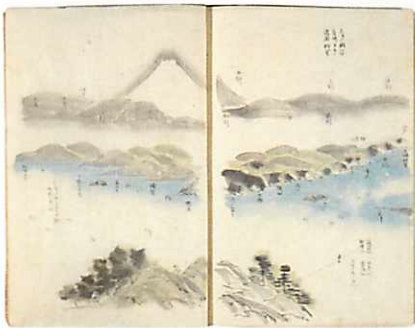


写真3

「海岸記聞」は江戸時代の末期に書かれた江戸湾沿岸の見聞記です。
あとがきによれば、著者は相馬某という人物、この書物は嘉永元年（一八四八）の夏、彼が上総への旅行の際に、武州、相州そして房総の海浜を順覧し、海防の厳重なのを畏れ見て、海防の拠点や設備を書き留めたもの、とあります。

本書の構成は上巻「大師河原・神奈川辺」「本牧領」「杉田郷・六浦の庄」「夏島・葉島」・烏帽子島「横須賀・公郷・大津」「猿島」「旗山御台場」「十国御台場」「観音崎御台場」「下巻「浦賀」「千駄崎御台場」「上宮田村」「三崎町」「城ヶ島」「網代湊」「三崎より海陸里数并方角」「腰越御台場」「房州」「上総の国海辺」「竹ヶ岡御台場」「大坪御台場」「富津御台場」「富津より東都迄海辺の惣況」の二三項目からなり、武州・相州が一七項目、海を渡り房州が六項目、おそらく著者の旅程にそって項目が立てられたと考えられます。

文章のほか、要所に彩色の絵が挿入され、文章を補助しています。挿絵は「六浦庄略図」（写真1）「猿島大津方ヨリ見ル図」「猿島御台場正面」「大筒車台仕掛ケ」「大筒備方土手組ノ図」「旗山御台場ノ図」「観音崎ヨリ諸方眺望」「相総御備場対峙大砲調密之図」「浦賀総図」「三崎町・城ヶ島地図」「浦賀ヨリ房総地方渡海」（写真2）「上サノ国百首峠ヨリ諸国眺望」（写真3）の二二図です。

項目や挿絵に台場や要害の地が多いことからうかがえるように、この資料の情報の中心は海防ですが、たとえば、六浦の項では、入江新田の開発や塩浜、野島湊を説明し、金沢の塩は「味ひ至て淡泊なり」、野島湊は「近郷第一の津：料理屋舟宿あり」等の記述があるなど、該当地域の地誌的情報も読み取れます。この点で、本書は江戸湾全体を広い視野から見渡した海防関係資料であるとともに、すぐれた地誌資料でもあります。

「海岸記聞」は当館のほか東北大学野文庫に所蔵されています。また「海岸記聞」の類本に「海岸紀行」があり、東京大学史料編纂所に原本、国立歴史民俗博物館や神奈川県立金沢文庫他で写本が確認されています。本の体裁や挿絵は両者ほぼ同じですが、記述の内容が若干違ふほか、大きな相違は、旅行時期を「海岸記聞」が嘉永元年夏とし、「海岸紀行」が嘉永六年夏としている点です。この相違も含め、今後、両者の関係を微細に比較検討することが必要になると考えます。

常設展示室探検

土器パズル

発掘調査で発見された土器の破片は、ていねいに復元されて博物館で展示されています。この土器の復元作業をパズルとして楽しむことができるのが、縄文土器・弥生土器パズルです。



これは、バラバラになった土器の破片を電磁石が内蔵された本体に張りつけることにより、一定時間（三十分）内に土器を復元していくパズルです。本体にはセンサーが組み込まれており、時間内に土器を完成できない場合には、「ピー」という警告音とともに崩れてしまう仕組みになっています。時間内に完成できれば、タイマーは停止し、30秒後に崩れるようになっていきます。

縄文土器は、旭区の上白根おもて遺跡で発見された縄文時代中期の深鉢形土器をもとに作ってあります。実物は常設展示の原始の部屋に展示されています。また、弥生土器は港北区の矢上谷戸貝塚から発見された弥生時代後期の壺形土器をもとに作ってあります。どちらも実物に近い形で作ってありますので、完成した土器は見応えのあるものとなっています。

時間内に復元することができるか、ぜひ、土器パズルにチャレンジしてみてください。



「ふるさと横浜探検」と「古文書解読教室」

◎ふるさと横浜探検

博物館では、館の外に出て、横浜市や近隣地域の史跡・文化財などをバスで訪れ現地を歩き、当館の学芸員や専門家の解説によって郷土の歴史や文化に触れる「ふるさと横浜探検」を開催しています。参加定員は三〇名ですが、毎回三倍から五倍の幅広い年代層の応募があり、好評を博しています。



平成七年度は五回（第一回：国史跡「三ッ殿台遺跡」と遺跡発掘現場の見学 第二回：国史跡「称名寺境内」と金沢周辺の歴史散歩 第三回：江戸時代の神奈川宿探訪 第四回：鶴見川流域の古墳・横穴墓を訪ねて 第五回：小田原城と石垣山「夜城を訪ねて」を行いました。

復元住居の建つ遺跡の丘やふだん立ち入れない発掘現場と発掘作業の様子、また歴史や伝説の残る寺町や宿場町の道沿いにある史跡や寺社の由来、厳冬に訪れた地方豪族の眠る古墳からみた眺望の良さなど、参加者のなかにはこの探検で初めての体験や新たな発見をされた方も多かったようです。これからも横浜の歴史を探検します。ご参加をお待ちしています。

◎古文書解読教室

昨年一〇月六日から一月三日までの毎週金曜日に、当館学芸員による初心者を対象とした古文書解読教室が行われました。定員の七倍近い応募があり、抽選の結果、二〇代の学生さんや主婦の方などをはじめ老若男女三〇名が受講しました。

全五回のうち、最初の二回で古文書の特



質について学び、三回目からは実際に市域に残る江戸時代の古文書読解に取り組みました。離縁状や年貢の証文、土地貸借の文書などを読み進み、最後には寺子屋の規則を読んで終了、計八点の古文書を読破しました。

五回の教室終了後、受講生の方から継続して勉強したいという声が多くあがり、二〇名余りで「古文書を読む会」を結成、博物館の研修室を利用して月二回ずつ古文書解読に取り組んでいます。

博物館では、秋にも古文書解読教室を予定しています。皆さんも庶民史の扉をノックしてみませんか。

ミュージアムショップ Museum Shop Original Goods オリジナルグッズ

先人たちの日常品を 現代の日常品に

好評の博物館オリジナルグッズに新商品が加わりました。

まずは、江戸時代の庶民の遊び道具のひとつ、双六。当館収蔵の双六の中から「東海道遊歴双六」（歌川広重作）の複製をオリジナルグッズとしました（サイコロつきです）。東海道五十三次の宿場の風景や名物を、遊びながら楽しく勉強



できます。

そして、夏にぜひオススメしたいのが、オリジナルTシャツの新柄。縄文土器をモチーフにしました。この土器は、港北二ユータウンの桜並遺跡などから発掘されたもので、常設展示室に展示してあります。

その他、てぬぐい、レターセット、縄文時代の装飾品をもとに作ったペンダントブローチなど、新商品が次々誕生しています。見学の記念にいかがですか。

歩いて、読んで、 地域の歴史

- 10月1日▷10月のハイビジョンシアター（土・日・祝日上映）「美の回廊をゆくー千畳の石窟千年の祈りインドアジヤンター」 「日本の書籍・出版文化の歴史」
- 10月6日▷古文書解説教室（11月3日まで毎週金曜日連続5回）
- 10月14・15日▷体験学習「土偶づくり」
- 11月3日▷11月のハイビジョンシアター（土・日・祝日上映）「美の回廊をゆくー東南アジア聖なるトポロジー」
- 11月11日▷特別展「中世の世界に誘う 仏像一院派仏師の系譜と造像」開催（12月10日まで、観覧者13,006人）
- 11月11・12日▷体験学習「わらそうり編み」
- 11月19日▷特別展関連講演会 清水真澄氏「院派仏師の造像とその系譜ー称名寺釈迦如来像を中心として」
- 11月26日▷特別展関連講演会 山本勉氏「鎌倉時代彫刻史と院派仏師」
- 11月28日▷＜ふるさと横浜探検3＞江戸時代の神奈川宿探訪
- 12月2日▷12月のハイビジョンシアター（土・日・祝日上映）「開戦バールハーバー」
- 12月3日▷特別展関連講演会 薄井和男氏「鎌倉地方の彫刻と院派仏師ー慶徳寺十一面観音半跏像を中心として」
- 12月10・11日▷体験学習「横浜風づくり」
- 12月26～27日▷＜ん蒸のため休館
- 1月6日▷1月のハイビジョンシアター（土・日・祝日上映）「水の表情ー越前和紙の美」 「冷泉家・春」
- 1月13日▷企画展「幻の縄文土器の時代ー都筑区桜並遺跡の発掘調査の成果」開催（2月18日まで、観覧者8,285人）。会期中の土・日・祝日ビデオシアター「遠い祖先たちのムラを掘る」上映
- 1月13・14日▷体験学習「がりがりとんぼづくり（竹細工）」
- 1月30日▷＜ふるさと横浜探検4＞鶴見川流域の古墳・横穴墓を訪ねて
- 2月3日▷2月のハイビジョンシアター（土・日・祝日上映）「やきもの紀行ータイの旅」 「受け継がれる江戸伝統工芸」
- 2月4日▷開館1周年記念特別講演会 網野善彦氏「海から見た中世の日本列島」
- 2月24・25日▷体験学習「まゆ人形」
- 3月2日▷3月のハイビジョンシアター（土・日・祝日上映）「世界やきもの紀行ー白磁の旅はるか」
- 3月3日▷ひなまつりイベント「いにしへの衣装を着る」
- 3月5日▷企画展「東海道と神奈川宿」開催（4月7日まで）。会期中の土・日・祝日ビデオシアター「東海道と横浜」上映
- 3月9・10日▷体験学習「まがたまづくり」
- 3月17日▷企画展関連講演会 山本光正氏「東海道と神奈川宿」
- 3月19日▷＜ふるさと横浜探検5＞小田原城と石垣山ー夜城を訪ねて
- 3月23日▷「大塚・歳勝土遺跡公園」オープン
- 3月24日▷企画展関連講演会 三輪修三氏「東海道と脇往還」

横浜市歴史博物館 ●日誌●（95年10月1日～96年3月31日）

◆今後の企画展のお知らせ◆

- ◆港北ニュータウン地域の暮らし
4月27日～6月23日
- ◆横浜市蔵ネイラーコレクション特別公開（仮題）
7月6日～7月21日
- ◆博物館収蔵資料展（仮題）
8月3日～9月8日

料や市民の皆様からご寄贈していただいた資料を公開します。
◆縄文文化のはじまり（仮題）
10月5日～11月24日
都筑区花見山遺跡から発見された縄文時代のはじめ頃の資料を中心にして、縄文文化誕生の謎に迫ります。

????? 知ってますか ???? ?

ハイビジョンシアター

世界やきもの紀行
白磁の旅はるか
©一九九一年
NHKエンタープライズ21



横浜市歴史博物館では、毎週土・日曜日及び祝日に講堂（定員186席）において「ハイビジョンシアター」と題して、15～60分のハイビジョン番組を1日3～6回上映しています（観覧料は無料）。

番組は毎月1～2本、月ごとに変わり、昨年度は日本の歴史や文化、伝統工芸などに加え、アジア諸国の文化財や美術などを紹介する計16本の番組を上映しました。皆さんは何本ご覧いただいたでしょうか？

本年度は、日本各地の美しい風景や歴史、伝統行事などを素材と

し、各地域に密着した番組を多く組み込んでいく予定です。

また、ハイビジョン上映に加え、企画展の内容に合わせて当館作成のビデオを上映する「ビデオシアター」や、当館で行われた講演会の録画ビデオを上映する「ビデオ講演会」も行っています。

詳しい上映予定は、館内案内などで随時お知らせしています。展示と合わせて、あるいは博物館見学の一休みに、また全番組の観覧を目指し、ぜひ精細な映像を大画面でお楽しみください。

横浜市歴史博物館の利用案内

●開館時間

午前9時から午後5時まで（ただし、入館は午後4時30分まで）

●休館日

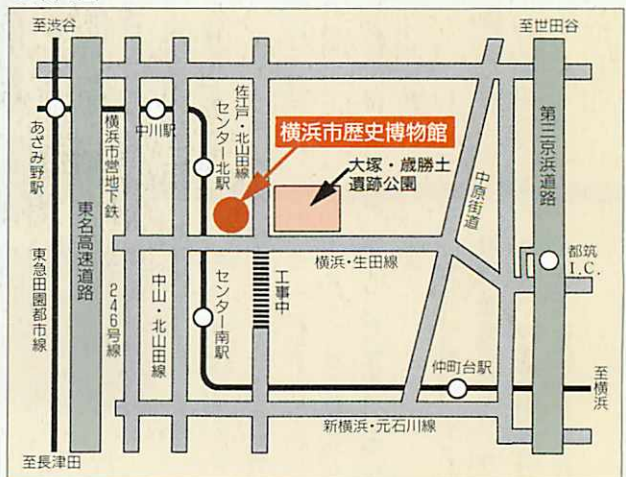
月曜日、祝日の翌日、12月28日～1月4日
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。

●常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上、1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

- ◆特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。
- ◆第2・第4土曜日は、小・中・高校生は無料です。
- ◆「長寿のしおり」「敬老特別乗車証」「愛の手帳（療育手帳）」「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

●案内図



（交通機関）横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分

編集後記

昨年（一九九五年）の一月二日に開館して以来、おかげさまで一年で約十五万人の方々に来館していただきました。そして今年三月三日「大塚・歳勝土遺跡公園」がオープンし、野外施設を併設する歴史博物館として、本格的なスタートを切ります。博物館で展示資料を観覧し、自由に囲まれた広々とした場所、そして、弥生時代の人々の生活に思いを馳せてみる、そんな一日を過ごしてみませんか。

